

最終更新日	2011年(平成23年)11月1日
-------	-------------------

校番 23	福山市立 鞆 小学校
-------	------------

1 学校教育目標

ふるさとを愛し、主体的に学び子の育成

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命(ミッション)

鞆の歴史、伝統・文化の“確かな継承”と新しい文化の“豊かな創造”拠点

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

学力が向上する学校
 ・習得型や問題解決的な授業を行う
 ・支持的風土のある学級集団づくりをする

地域の伝統・文化が生き続ける学校
 ・9年間の育ちを小中連携で取り組む

3 自校の現状分析

確かな学力
 ・県「基礎・基本」定着状況調査では、国語 86.5 算数 81.5 の通過率で、ともに県・市平均を上回った。単元テストの平均点は、国語 84 点、算数 85 点で概ね基礎学力は定着できた。
 CRT テスト(数字本校の学年平均点・全国平均点)
 国語 1年-0.7点 2年-2.9点 3年+0.2点 4年-4.5点 5年+1.1点 6年+8.2点
 算数 1年+3.0点 2年-3.7点 3年-0.8点 4年-6.3点 5年+0.3点 6年+18.1点
 保護者:「基礎的な学力が付いている」87% 1ポイント 児童:「勉強がよく分かる」90%

豊かな心
 ・鞆っ子生活ルール 5 項目を重点に取り組んだ。掃除名人等の表彰や掲示を工夫することで児童の意欲を高めることにつながった項目もある。廊下歩行も課題はあるが、改善傾向にある。あいさつの質を高める指導を工夫する。
 児童:「すすんであいさつができる」93% 2ポイント
 「黙って掃除をしている」93% 4ポイント
 保護者:「家庭や地域でよくあいさつをしている」86%

健やかな体
 ・週 2 回の体育朝会で、かけ足となわとびを 1 年間指導した。シャトルランは市平均を上回った。柔軟性 6/12 項目、握力 10/12 項目が上回ったが、特に柔軟性には課題がある。(2 月時点)

力量ある教職員
 ・図録や総合的な学習を中心に地域教材や人材の活用等により、鞆のよさを伝える工夫を重ねる。また、本年度の授業研究を土台に、児童に算数の力をつけるための授業改善を継続する。
 保護者:「授業はわかりやすいと言っている」89% 「様々な活動で鞆のよさを伝えている」94%
 児童:「勉強はわかる」90% 「算数ノートへ自分の考えを書いている」91% 「鞆のよさを伝えた」86%

市民から信頼される学校
 ・学校教育への肯定的評価は全体的に高い。
 アンケート回収率 98% 1ポイント
 保護者:「お子さんは、参観日やフリー参観日で、一生懸命学習している」92%
 学校教育全般への肯定的評価の平均値 92%
 教職員:企画書、中間報告書、最終報告書作成・報告 100%

4 研究主題

(1) 研究主題

《小中連携研究テーマ》小中連携を通して、共に高まり、学習し合う児童・生徒の育成
 - キャリア教育の視点に立ち、コミュニケーション能力の向上と学力・生活力の定着をめざして-

《授業研究テーマ》基礎・基本の「習得」「活用」に向けた指導法の確立
 - 教えること考えさせることを明確化させた算数科授業を通して-

(2) 研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
福 山 市	教育研究支援事業(小中連携)	2008年(H20年)~2010年(H22年)

5 今年度の重点目標と設定理由

重 点 目 標	設 定 理 由
学力を全国水準に引き上げる。	職員の授業力向上に取り組み、確実に基礎学力を定着させる必要がある。
生活ルール 5 項目の内、特にあいさつの基準を明確にし、指導を徹底する。	小中連携のもと、キャリア教育を推進する。社会生活の基本である気持ちの良いあいさつができる児童・生徒を増やしたい。
鞆のよさを実感し、伝えることができる児童を増やす。	図録 5 号の制作、地域の伝統文化の継承等に取り組み、鞆のよさを伝えることができた実感できる児童を増やしたい。

6 評価基準

評価・指標評価	基 準	
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

・自己評価(中間)の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(中間) 評価	評価項目・指標等 (成果 取組み 成果と取組み に着目)	(中間) 指標 評価	評価項目・指標等 改善方策	短期(中期)経営目標 の達成状況																																							
確 かな 学 力	2	全国水準の学力を つける。		継続	家庭学習や補充学習を 充実し、基礎学力を定着 させる。		算数科単元テストで、平均85点以上にする。	a	算数科単元テストの平均点は85.5点で85点を上回っている <table border="1"> <tr> <th>観点別</th> <th>考え方</th> <th>技能</th> <th>知・理</th> </tr> <tr> <td>平均点</td> <td>78.0</td> <td>87.8</td> <td>88.5</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th>領域別</th> <th>数・計</th> <th>量・測</th> <th>図形</th> <th>数・関</th> </tr> <tr> <td>平均点</td> <td>86.8</td> <td>82.2</td> <td>82.2</td> <td>92.2</td> </tr> </table> スキルタイムを活用し課題に取り組みと共に、身の回りに関連 づけて見方・考え方を育てる活動を取り入れる。スキルタイム で間違えた問題やテストで85点未満のものは金曜日の補充学 習で残してやりきらせる。	観点別	考え方	技能	知・理	平均点	78.0	87.8	88.5	領域別	数・計	量・測	図形	数・関	平均点	86.8	82.2	82.2	92.2																						
							観点別	考え方	技能	知・理																																							
平均点	78.0	87.8	88.5																																														
領域別	数・計	量・測	図形	数・関																																													
平均点	86.8	82.2	82.2	92.2																																													
					「基礎・基本」定着状況調査、CRT 学力テ ストで全学年が県・全国平均を上回る	B	「基礎・基本」定着状況調査の結果では、国語72.8(県78.5) 算数72.0(県77.8)であった。 <table border="1"> <tr> <th>国語</th> <th>聞く</th> <th>言語事項</th> <th>読む</th> <th>書く</th> </tr> <tr> <td>本校</td> <td>87</td> <td>65.2</td> <td>70.9</td> <td>84.9</td> </tr> <tr> <td>市平均</td> <td>80.0</td> <td>71.2</td> <td>75.5</td> <td>85.2</td> </tr> <tr> <td>県平均</td> <td>83.5</td> <td>74.5</td> <td>77.3</td> <td>89.7</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th>算数</th> <th>数と計算</th> <th>量と測定</th> <th>図形</th> <th>数量関係</th> </tr> <tr> <td>本校</td> <td>75.8</td> <td>55.3</td> <td>73.4</td> <td>81.1</td> </tr> <tr> <td>市平均</td> <td>78.2</td> <td>62.0</td> <td>74.8</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>県平均</td> <td>81.7</td> <td>65.2</td> <td>74.3</td> <td>86.0</td> </tr> </table> 改善計画に基づいて、取り組んでいる。スキルタイムや放課 後補充等を活用し、課題に取り組む。また、学期はじめの休 み明けテストを分析し、補充学習にいかしている。	国語	聞く	言語事項	読む	書く	本校	87	65.2	70.9	84.9	市平均	80.0	71.2	75.5	85.2	県平均	83.5	74.5	77.3	89.7	算数	数と計算	量と測定	図形	数量関係	本校	75.8	55.3	73.4	81.1	市平均	78.2	62.0	74.8	83.3	県平均	81.7	65.2	74.3	86.0	b	
国語	聞く	言語事項	読む	書く																																													
本校	87	65.2	70.9	84.9																																													
市平均	80.0	71.2	75.5	85.2																																													
県平均	83.5	74.5	77.3	89.7																																													
算数	数と計算	量と測定	図形	数量関係																																													
本校	75.8	55.3	73.4	81.1																																													
市平均	78.2	62.0	74.8	83.3																																													
県平均	81.7	65.2	74.3	86.0																																													
豊 か な	2	児童の規範意識 を高め、生活習慣 や家庭学習習慣 を改善する。 (5項目平均		継続	鞆っ子生活ルール(あいさ つ・そうじ・履き物揃え・ シューズ洗い・廊下右側通 行)を定着させる。	B	あいさつ(自分から・元気よく・おじぎをし て)ができる。廊下歩行の約束が守れる。肯 定的評価80%以上(児童アンケート)	b	あいさつは肯定的評価は児童87%、保護者91%であつた が、廊下右側歩行は75%にとどまっている。 教師、児童会の両面から指導や呼びかけを続け、あいさつや 廊下右側歩行を意識して生活させることで、達成率向上を図 る。																																								

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

			継続	小中連携で家庭教育3カ条の周知を図り、3項目を習慣化する。	B	家庭学習時間1年「20分」2年「30分」3年「40分」4年「50分」5・6年「60分以上」、朝食、睡眠の肯定的評価を平均93%以上にする。(児童アンケート) 小中連携	b	「宿題を 分以上している」の肯定的評価は、86%であった。また、「朝食・睡眠」の肯定的評価95%であった。学級懇談会や通信その他で保護者啓発をする。また、生活学習カードを活用し、児童に意識づけ達成率向上を図る。
健やかな体	2	粘り強い体力を付け、全国水準を目指す。	継続	柔軟性や持久力を高める。 小中連携	D	長座体前屈・握力・シャトルランで、市平均より上回る項目を80%以上にする。(記録の比較)	c	新体力テスト(5月)の結果と前年度市平均を比較すると、全36項目のうち、市平均より上回ったのは20項目で、56%の達成率である。毎日のストレッチが習慣化するような声かけと、学年での取組みを粘り強く継続する。児童へ運動の必要性や意図を話す。
						かけるんタイムで、42.195kmを目標に5分間走を1年間継続する。高学年281周・中学年250周・低学年190周を70%以上の児童が達成する。(記録表)	e	各学年の目標を達成した児童の割合は17%である。全体への呼びかけをし、目標をもって走れるようにする。達成状況を掲示し、伸びを感じられるようにする。
力量ある教職員	2	45分で分かる授業力をつける。「勉強がよくわかる」児童の肯定的評価90%以上)	見直し	算数の授業研究を深め、習得・活用の力を伸ばす。	B	研究の視点(教えること考えさせること・ノート・説明・算数的活動)に沿った授業評価で、相互評価の平均値を3以上にする。(4段階評価表)	b	授業評価票による相互評価の平均は、2.9点であった。特に「児童のねり合い」「説明力3項目」において課題が大きかった。事前研で「何を言わせるか」について、また、ねり合いの場面をどう設定するかについて、具体的に協議する。理由をつけた発表をさせることに取り組む。
	2	地域のよさを理解し、伝えることができる児童を育成する。「鞆のよさを伝えた」100%)	継続	地域の伝統・文化を活かした教材や活動を継承・発展させる。	B	図録第5号の作成を通して鞆のよさを地域や市内に発信する。「鞆のよさを伝えた」の児童の肯定的評価を95%以上)	b	6月児童アンケートで「鞆の町のいいところを2つ以上言える」の肯定評価91%であった。保護者アンケートでは「様々な活動で鞆の良さを伝えている」の肯定評価は98%である。学年集会で「鞆の町じまんカード」の紹介をしながら図録の絵の題材を決めることで児童の取り組みの意欲を高める。図録の取り組みだけでなく、総合的な学習の時間等の取り組みの中でも鞆のよさを伝えているという意識をもたせる。
学校 市民から信頼される	2	学校経営への参画意識、貢献意識を高める(学校運営に係る職員の肯定的自己評価100%)	新規	教育公務員としての規範意識を高める	B	不祥事防止チェックリストによる肯定的評価を100%にする。	b	肯定的評価は、4月97% 6月95%と、3%下がったので、8月の校内研で数値が下がった項目について校内研修を行った。その結果8月は、98%になった。各月で「不祥事防止チェックリスト」を行うことで、自己の振り返りをし、意識を高める。
			継続	自主的に教育環境の改善に努める	C	自ら目標をもち、1年間継続して教育環境の改善に貢献できる仕事をする。(職員の肯定的評価90%以上)	c	9月の「目標値の8割以上できた」は、61%「半分以上できた」は100%であった。自らの個人目標の再確認を行い、肯定的評価の達成率の向上を図る。また、担当としても職階等で啓発する。